

令和3年度北杜市総合教育会議 会議録 (要旨)

開催日時 令和3年11月15日(月) 午後1時30分

開催場所 北杜市役所 北館大会議室

出席者 委員  
興水清司教育長、小澤建二教育長職務代理者、古屋昭彦教育委員  
浅川英三教育委員、小林志保教育委員、藤森勇教育委員、  
上村英司市長

教育委員会(教育部)

加藤寿教育部長、佐野隆教育部参事、平井ひろ江教育総務課長、渡辺美津穂生涯学習課長、花輪孝学校給食課長、廣瀬公明中央図書館長、村松佳幸学術課長、小林晋甲陵中・高等学校事務長、田中和美教育指導監、氏原求指導主事、天池富貴男総務担当リーダー、柳澤信吾総務担当

事務局

中山晃彦総務部長、原章浩総務担当リーダー、平嶋華奈総務担当

議題 (1) 来年度の教育施策について  
(2) いじめ対策について  
(3) その他

公開・非公開の別 公開

傍聴人の人数 3人

内容

1. 開会  
(午後1時30分)
2. 市長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 協議事項

会議招集者が市長であるため、市長が協議の進行役となる。

(進行)

「(1) 来年度の教育施策について」を教育部に説明を求める。

(教育部)

資料『第3次北杜市総合計画の全体像(修正案)』により説明。

(進行)

意見、質問を求める。

(委員)

合併前の旧町村で出来ないことが北杜市になり全体で大きな活動ができるようになったが、各町村の文化協会等できめ細やかにやっていた活動が少なくなってしまう。子育てが終わった後に生涯学習に目を向けていくような受け皿を作っておく必要がある。そのために、文化協会やスポーツ協会の活動を持続していきながら、北杜市になる前の生涯学習の知恵を集めていけば、さらに市民生活や文化の向上に役立つのではないか。

(教育部)

文化協会やスポーツ協会の人員が減っているという現状がある中で、これからも必要な支援をしていきたい。市民の方や、子育てが終わった方達に興味を持って参加してもらえそうな受け皿づくりをしていきたい。

(進行)

本来、生涯学習は一体であるべきであるが、図書館や学術課など市の部局が分かれており、縦割りになっている。様々な場所に色んな市民が参加できるようにしなければならないので心掛けていきたい。

(委員)

住みたいまちの人気ランキングでも上位になっているなかで、北杜市は修学旅行等でも人気が高い。若い世代にどのように北杜市の良さをPRしていくかという面で、北杜市には安全安心の素晴らしい環境があり、誰もが来たいという思いは間違いなくあると実感しているので、重点戦略として地域産業の活性化は良いと思う。要望としては、高齢者社会の中で識見をもった方から学ぶことは重要であるが、子どもたちに投資してほしいと思う。私たちが想像できな

いような考えを持った子どもたちの声を聴く機会を取り入れて、計画に位置付けて頂きたい。

(進行)

若い世代の声を取り入れる機会の創出について、県でも高校生議会を取り入れており、チャレンジしていきたい。また、市でも SNS の発信を行っているが、高校生等にも活用していただき、SNS を通じて声を収集していくことが大事であると思う。

(委員)

教育活動に地域の方々が関われるようにしたい。コミュニティ・スクールの推進として、地域のヒト・モノ・コトを活用した活動をしているが、課題として、学校の OB の方が中心になって活動に携わっている。地域の方々が関われるような活動になっていくと、無理なく続けていける活動になり、地域がまとまっていくと思う。人口減少や少子高齢化で地域の教育力が低下や、家庭の教育力の低下も課題であると感じる。地域の共同体がなくなりかけていくなかで、学校だけでは取り組んでいけない。コミュニティ・スクールによって、地域の方々が学校に参加するきっかけづくりとなり、教育活動に関われるような環境づくりをしていくことが重要である。

(進行)

コミュニティ・スクールや地域の関わりについてはどうか。

(教育部)

来年度中にはすべての地域でコミュニティ・スクールが立ち上げられるように検討していただいている。保護者や地域の方にとって、学校運営協議会は垣根が高いという印象を持たれる。誰もが学校の教育に関われるような取り組みが必要であり、それぞれの地域に合ったコミュニティ・スクールの在り方を考えていきたい。

(進行)

今でも地域の方々が関わって様々な活動をしているが、発信不足で見えていないところもあると思う。更に取り組みが盛んになっていければ良い。

(委員)

北杜市にはそれぞれの地域に足を運んで頂けるような素晴らしい魅力があ

る。そのことを子どもたちにも伝えなければならない。シビックプライド（地域に愛着や誇りを持って地域を良くしていこうとする自負心）を教育していく手段として、地域教育が重要である。北杜市には原っぱ教育があるので、そこをブラッシュアップして、伝えるべきだと感じている。

また、八ヶ岳スケートセンターが市に移管されるということで、冬だけでなく夏をどう活用するのか、部会を設けて知恵を出し合って検討している。総合計画等においては、10年先を見据えた計画策定をして頂きたい。

（進行）

子どもたちに誇りや愛着を持たせるような教育についてどう考えるか。

（教育部）

学校に地域の方が入っていただくことはとても有効であると感じる。地域全体で一緒に活動しながら、実感を共にしていくと子どもたちにも自然に伝わると思う。子どもたちにとって何が良いかを考え、地元の良さを子どもたちが感じられる学習内容にしたい。

（進行）

八ヶ岳スケートセンターの進捗状況についてはどうか。

（教育部）

4月から市が譲り受けるということで、夏の活用が重要になってくる。先日の先進地視察で、リンクの真ん中をコンクリートで固めて、夏場はサッカーやテニス、遊具の設置など、有効に活用していることが分かった。真ん中の部分について、どういった活用ができるか検討委員の皆さんと検討していきたい。市民全員がスケートセンターを受け入れることを喜ばしく思っている訳ではないので、しっかりと検討してスケートの文化を継承していけるように進めていきたい。

（進行）

スケート文化を継承していくことと、あまり赤字を出さないように心掛けていきたい。

（委員）

子どもたちが町を出たいと思う前に、どれだけ地元の良さを埋め込んでいけるのかが地元の人たちの役割であると思う。地元の人たちが地元の良さを知

り、子どもたちに住んでもらうためのまちづくりに力を入れてほしい。田舎の良さを継続しながら、新しいものを受け入れることが重要であり、特に英語に力を入れてもらえたらありがたい。英語教育が足りないと言われてきているがまだ足りないと感じる。前例がないからしないという訳ではなく、色んな地域の方が北杜の教育は面白いと感じるように取り組んでほしい。私も北杜市の魅力についてPR不足だと感じるので、北杜市のシビックプライドを持って魅力を発信してほしい。

(進行)

地元の良さを高める教育に関して、教育長に意見を伺いたい。

(教育長)

子どもたちがいかに地域の方や文化に親しむかが重要である。昔は自然に親しんでいたが、子どもたちも忙しくなってしまう、親しむ機会が失われてきてしまっていると感じる。地元の良さは地元にとっぴりと浸かってもらうことが一番良いと思う。

(進行)

英語教育に関してはどうか。

(教育部)

市でもALT(外国語指導助手)を配置しているが、英語を話せる人が学校現場にいるということは子どもたちにとって良い環境である。しかしながら、小学校現場においては、教員だけで英語の教育をするのは無理があると感じる。ALTの活用だけでなく、地域の方の活用も今後考えていきたい。

(進行)

私も幼い頃の地域学習で学んだことは今でも覚えているので、そのような体験をさせてあげられる教育をしていきたい。

(委員)

東京の小学校では、先生方が全て英語で対応するという授業があった。そんな取り組みも面白いと思う。

(委員)

社会全体で生涯学習の機運が高まると、自然と背中を見て子どもたちは育つ

ていくと思う。また、中学校の適正規模について審議会で検討されているが、どんどん子どもが減少している現状がある。北杜市に合併した良さや果実を、直接子どもたちに味わせることができる教育環境になるように取り組んでほしい。

(教育長)

学校教育は決められたカリキュラムがあり、英語教育等のプラスアルファが求められている。その中で特色ある教育を打ち出すということは難しいと感じている。しかし、中高一貫教育を山梨県で先駆け、義務教育で選択できる制度が生まれたことは北杜市の特色である。また、市単独補助教員などを配置し、他市よりも特別支援教育に力を入れていることも特色だと感じる。また、これから大事になると感じているのは、不登校等、今の学校に適応できない子どもへの対応である。子どもたちの実態に合わせて、望むべき学びの場を提供することが今後の課題である。これまで平等な教育が求められてきていたが、これから望まれるのは公正な教育である。個々の子どもたちの状況を見ながら用意できる教育が望まれる。今後も子どもたちにとって魅力のある信頼される学校づくりについて、皆さんと一緒に深めていきたい。

(進行)

「(2) いじめ対策について」を教育部に説明を求める。

(教育部)

資料『いじめ防止のための取組（提言を受けての防止策）【案】』により説明。

(進行)

意見、質問を求める。

ないようなので、私から質問させていただきたい。いじめがあると気づいたとき、先生はどのような対応をとるのか。

(教育部)

まず、教員が学年や学級で感じ取ったものやアンケートで把握したものを校内の教員同士で共有し、その後、市教委に報告してもらう。今後、迅速に対応出来るようにするためには、学校の方に手順やマニュアルを示した方が、どこの学校で把握しても迅速に対応できると思う。校内で対応する体制づくりも大事であるが、専門家の意見を聞きながら、市教委と協力していけるよう力を入

れていきたい。

(進行)

保護者は、そこにどのように関わるのか。

(教育部)

まずは事実確認をしっかりとしていき、保護者の方に詳細を伝えていく必要がある。しかし、その後の対応について、保護者に全て入っていただくわけにはいかないの、学年や学級のなかでの保護者との対応を、教員同士が共有していくことが大事である。いじめを認知した後の学校の対応として、複数の先生が対応して保護者との間に齟齬が生まれないう、窓口を設定していく。学校と保護者とで意見がなかなか合わないときは、市教委も入り、丁寧に対応していくことが必要であると考え。

(教育長)

他市において、恐らくいじめが原因で自殺が起きてしまった事例がある。その学校では、いじめの事案に対して積極的に対策をとっていたことを知った。その子どもはアンケートにも答えておらず、保護者にも相談していないなど、いずれのSOSも発信していなかったが、よっぽど追い詰められていたと思う。こちらがいくら体制を整えても、本人が訴えてくれなければ意味がない。いかにSOSを出させるのか、声に出しやすい環境を整えるのが重要と改めて思った。我慢することが良いことではないことを子どもたちに伝えていく必要がある。

(委員)

教職員の意識改革の為にも、校長会やアンケート等で現場の声を聞いて、良い提言の形になれば良いと思う。

(委員)

いじめ問題専門委員会と調査委員会の分離は、事案が発生した際に子ども達に寄り添っていくためにも、とても大切なことであるため、お願いをしたい。スクールソーシャルワーカーの配置について、北杜市は学校数が多いので、早期対応できる体制として2名配置を進めていただければと思う。

(委員)

世間ではいじめという言葉が一人歩きして過剰に反応し、加害者と被害者の

対立の構造をすぐに作りたいという傾向が感じられる。いじめはもちろんあってはならないことであるが、子どもたちは自我意識が芽生えてくる頃であり、諍いは起こりうることであるので、自立し大人になっていくための機会として、丁寧に指導していくことが大事だと思っている。

(委員)

教育委員会からのメッセージが、教員にとって大事になってくると思う。校長や教育長だけでなく、市に相談できるような体制づくりをしていけたら良い。いじめの問題だけでなく、教育全般について市全体で考えていけるような組織づくりをしていただければと思う。

(事務局)

学校現場の声を相談できる体制について、まずは教育委員会で議論していただき、教育現場の声がしっかり届く組織づくりをしていく必要がある。

(委員)

教育委員会の人員を増やしていくことを検討していただきたい。一人一人の業務の比重が大きすぎると感じる。心に余裕を持ちながら対応できるような体制にしていいただければと思う。いじめについて、マニュアル化されてどの学校でも同様の正しい対応がされるようなバックアップ体制はありがたいが、できる限り親同士や子ども同士の対応で終われば、後々の人生の過程で大きな傷を負うことはないと思うので、いじめはなるべく小さな芽のうちに収めていただくような対応をお願いしたい。親が子どもに目を向けていくことが一番大事だと思うが、親が子どもに学校内で起こったことを全て聞くことはなかなか難しいので、先生方には負担になると思うが、耳を傾けていただきたい。

(進行)

最近は子どもの人権を擁護する法律も出来ており、市としても市民の皆様に子どもの人権を理解していただけるような条例や機会を作る必要があると思っている。

「(5) その他」について意見、質問を求める。

(進行)

意見等はないようなので、以上で協議事項を終了する。



(事務局)

以上で北杜市教育会議を終了する。

6. 閉会

(15時15分)